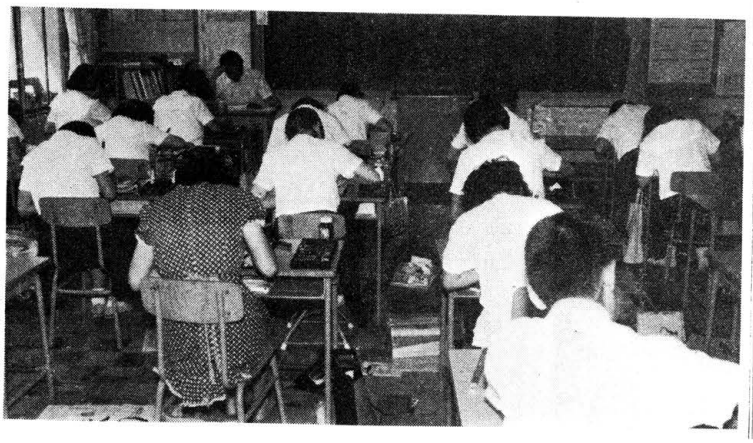
宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
宗像会
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊 代表26番
定価一年送料共 500円

第十七回宗像大社中津宮

七夕揮毫会行わる



夏季恒例の〝中津宮七夕揮毫会〟は去る七月二十一日折悪しく台風が接近していたが、会場を玄海小学校に移し無事開催された。

当揮毫会は例年、当大社中津宮鎮座地である大島で行われるのであるが、台風七号の接近で海上が時化ていたため急遽会場変更のやむなきに至った。

この為、天候の心配もさることながら、会場変更による混乱や不手際が生じるのではないかと心配されていたが、いづれも大事なく玄海小学校当局者の親身のお世話と全面的御協力により参加者は定刻通り会場に集合し、無事に揮毫を開始した。

当日は、去る七月七日に大会に先だち行われた予選審査で、応募者壱千数百名の中から選ばれた六五〇名のほとんどが参加して筆を競った。

小学校では昨年から習字が正課として取り入れられ、又中学校では書道クラブが年々活発になっており、他方では塾活動なども盛んであるため、宗像大社内に設けられた作品受付所に届けられる作品は見事なものばかりで、関係者を驚かせていた。

審査は午後一時から当社斎館で坂口雅風、城戸筑山両先生により厳正に行われ、午後三時より当社本殿に於いて発表並表彰式が執行された。

優秀作品には宗像大社宮司賞、福岡書道会賞、夕刊フクニチ賞、尚文堂賞、ヒロカネ賞などがそれぞれ贈られた。尚、入賞作品は当社祈願殿ロビー二階に夏休み中展示される。入賞者は次のとおり。

小学校の部

一年、特選、おこうつよし（福岡）、準特選、よしとみあき子（赤間）準特選、まつをみほ子（赤間）金賞、たかはたゆみ子（赤間）金賞、かとしうゆきえ（東郷）金賞、よだやすまさ（東郷）

二年、特選、下司なぎさ（玄海）準特選、中牟田てつや（大島）準特選、中原けんじ（福間）金賞、まつもとちづる（玄海）金賞、たかしまつとむ（玄海）金賞、ながせみきこ（大島）金賞、みやもとえいじ（大島）金賞、高田修（福間）金賞、はたかつのぶ（大島）金賞、遠藤良如（大島）金賞、川崎宗史（津屋崎）金賞、辻野一美（福間）

六年、特選、前田律子（福間）準特選、中山留美代（東郷）準特選、渡辺麗（福間）金賞、木原繁子（福間）金賞、木下佳世子（東郷）金賞、秦博徳（福興）金賞、荒川まみ子（赤間）

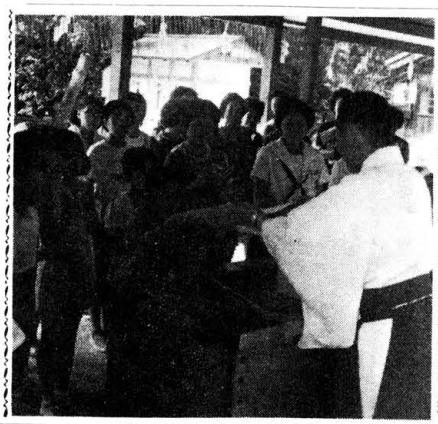
中学の部

一年、特選、大神多美子（中央）準特選、橋田のり子（津屋崎）金賞、石松政幸（城山）金賞、畠田宋二（福間）金賞、村山文子（福間）

二年、特選、木原淳一（福間）準特選、宗像すが（玄海）金賞、柔原百合子（福間）

三年、特選、川崎洋子（中央）準特選、河野清文（玄海）金賞、浜京子（津屋崎）

最優秀賞、下司なぎさ（玄海小二年）川崎洋子（中央中三年）



予選通過者昨年を上まわる

神興）

三年、特選、前田邦広（福間）準特選、橋田ひでゆき（津屋崎）準特選、中山さちえ（玄海）金賞、安井元昭（東郷）金賞、水吉田紀（福間）金賞、広橋ますみ（玄海）金賞、吉田としのり（玄海）金賞、前野めぐみ（赤間）

四年、特選、宗像ちが（玄海）準特選、神代怜冷（福間）金賞、牧えみ（東郷）金賞、松本真誠（玄海）金賞、田中千由里（玄海）金賞、松永綾子（福間）金賞、相部美田紀（東郷）金賞、川崎善彦（津屋崎）金賞、秦浩起（神興）金賞、石松利徳（赤間）金賞、遠藤雅恵（大島）

五年、特選、塩屋かなず（津屋崎）準特選、藤田ちづる（上西郷）準特選、増田あけみ（津屋崎）金賞、中村繁利（

神具、装束　株式会社　井筒
結婚式場用品
九州店　福岡市吉塚一丁目三番番号（〒八一二）電話 福岡（〇九二）六五一九四五六番
本社　京都市下京区油小路五条北入（〒六〇〇）電話京都（〇七五）三四一三四四（代）～四番
電話京都（〇七五）三五一一三四四・六〇六番

論説

病と罪の履歴書

怠け者の病気欠勤届を見て、その会社の部長が、病気と書かずに霧島病と届けると皮肉った話がある。退院を言い渡された患者で、次々に新説を並べてもっと長く療養してくれと頼む者も稀にあるとは、入植導重の世情が昔と違って臭い飯を食わせなくなり、診察施薬、娯楽入浴の待遇をよくしたからであろう。

留置場刑務所の経験はないが、入院の履歴豊かな患者が先輩ある総合病院に短期ドック入りして感じたのは、患者と罪人に似た点のあることである。両者を類似すると云っては失礼かも知れぬが、病歴や罪業の表現とその心理が面白い共通点を思わせる。

大部屋の病室に個室が空かないため新入り、一年以上居る自慢顔の大部屋名士が、荷物を片ずける途中に話しかける。江戸時代の牢屋と同様ここでも古参が幅をきかすのか。翌日また新入りがベッドに荷物をおろすと、住所や職業を訊く。気の強そうな中年はムッとして「ここは江戸時代の伝馬町ではないのだよ、牢名主が新参の入牢に犯罪の履歴を語らせる場面が、映画や小説にあるけれど、どこに住みどこに勤めていようが君に何の関係があるか。安心したまえ、精神病ではないので病中君の首を絞めることはないから」と手厳しい返答が古参を圧倒。

診察や検査の外は、退屈で時間を持てあます。自然にロビーの面会所の椅子が満員になる。おしゃべり婦人の病気の内容説明に、つり込まれた連中が実々病歴に花を咲かせる。見ようによっては下手な医者の集り。中途半端な治療や薬の知識が、当人には逆に有害だとは気がつかない。

血圧その他の症状に、細かい数字をあげる。血圧をあげる方法は医学の担当、本人はとげ出来ないのだから、血圧の数字など知る必要はない。

窃盗か詐欺かと先輩の質問に答える新参は、大罪犯歴の内容を誇張するそうである。ケチな犯行で捕ったあっては、重罪に輩蔑され牢内の番付が下位になるのを恐れる劣等感が、犯罪史にも見える。

病気の重さ回復の難しさ、ひいては入院費の長さが自慢げに披露されている様子は、軽い患者たちの同情を呼ぶつもりか、大切に特別扱いされたいためか。入牢仲間でも重犯罪ほど顔がよい。病室も獄舎も奇妙な心理が動いている。

血統や先祖の業績まで振りまかれると只持ちが出来なくなる。凝った パジャマで煙草をくゆらす貴婦人然たる面構えは、病院ずれの振舞いでなく近所でも婦人集会でもつるさい存在だろう。用小僧が演劇で、鞍馬で鍛えた妙技を壇ノ浦で八艘飛びの離れ業に見せた源義経の子孫だとは云わないが、小泥棒が親方の有名な悪業など誇らかに放言する場面はある。事実か否かは疑わしいが、ありそうなことである。

近隣の患者のいびきを非難する当人が、家庭内の事情を知らせるような寝言を続ける。容易に口を割らぬ容疑者が夜中うなされたりうわ言を看視員に聞かれ、遂にかくしていた重大犯行を自白する例も聞く。病気と犯罪は精神的動揺と肉体的不安をひき起す。

近頃科学的偽装など医療の世界にも問題が少くない。入院して医者看護婦の昼夜にわたる職務は大変である。単に賃金と労働との関係だけで見られない世界である診察施薬その他治療上の細心な指導注意は、人の不幸を救い社会を少しでもよくしたいと願う本質的な清在意識を感ずる。健康回復の喜びを天職とする医に、強い責任感、積極的な研究努力が動くことを知るが故に、感謝の念が尽き先生としての敬意が生れる。

施設の不備をあげる患者はまだしも、身分によって差別があるなどの井戸端会議的な発言に至っては、既に別の無名の病を内蔵しているとしか言えない。自分の犯した罪はこれで留置場の待遇や検察当局の厳しさのみ訴える容疑者、昔も今も浅はかな人間の弱さは変るまい。一部の例外はどの世界にもあるが、法も医も一視同仁。

文明の進歩は、社会機構をもっと複雑にし新しい罪病原因も増大する。犯罪の方でも知能犯が暗躍する。いずれも科学的研究の進展によって、専門家が熱心に当る以外にない。然し、病を追う医学、罪を許さぬ捜索、それ以前のものを考える必要がある。それは簡単な方程式を解く数学のようにゆかない難問を包含している。

阿蒙少言

一般の衣食住の生活は著しい変化を見つつあって、衣装も数年前のものが古くさくなり、住宅も十年前に建てたものが旧式になってくる。食生活も和洋中華に新工夫が加えられ、料理の講習会も若い人たちに魅力を感じさせると共に専門の先生の指導がなければ判らなくなるほどの進化ぶりである。

漬物でお茶すけをと聞きされた明治老れも羨ます珍味も少くない。

○然し、伝統の味に新しい技術を加えてゆく日本料理も廃れることはなさそう。特に板前などの交流が多くなった現在、そばとすしの味にさほどの開きは感じられない。江戸前のにぎりずしのネタがメキシコの海老やアフリカの鰯、外来のシャリでなければ調理の技術の違いだけが問題というわけ。

○板前修業も昔の弟子入りは消えて、若い志願者が集団で講習をうけ新しい技術を学ぼうとする傾向も出てきた。県下に八百の店数を持つ福岡なら、有数のすしどころと言える。四季を通じて魚介の宝庫と自慢する玄界灘を控えていることが、その発展の素因かも知れぬ。

○ところでこの道の通といわれる人たちのすし言葉は、不馴れには解りにくい。エンガワ・トロ・カッパなどにぎりに緑の遠い者には質問したくなる。すし通の用語。

○シャリが米、アガリがお茶、ゾケがまぐろの赤身、キョクが卵と呼ばれるのは、勿論今日始めてでなく恐らくチョンまげ時代の江戸っ児から伝わったものであろう。粋好みで軽妙なしゃれが、江戸文学を特色ずけているのから見ても、それぞれ起因に意味があろう。

○醤油をムラサキ、しいたけを陸笠と呼べば雅味滑稽味があり、戦国時代宮廷で使われたシラカベ（豆腐）カミナガ（僧侶）などの隠語に似て、江戸前の伝統を感じさせる。用語は時代の手形か。（白雲）

暑中御見舞申し上げます

出光
APOLLO
福岡市中央区大名2丁目8番26号
出光興産株式会社福岡支店
取締役支店長　野口悠紀雄
北九州市門司区錦町3番7号
出光興産株式会社門司支店
支店長　村上義明

宗像三女神像奉納さる

―◇人形師置鮎琢磨氏◇―

博多人形師、置鮎琢磨氏から博多人形宗像三女神像が当社に奉納された。

去る七月二十三日、御夫妻お揃いで来社され、奉納された三女神像はえもいわれぬ見事な色彩の品位ある像で、三女神が鏡と剣と玉を奉持されているお姿である。

早速神前で奉納式を斎行し、勅使館にひとまず納めた。丁度、坂東三津五郎氏がみえていたが、氏もこの見事なる作品に感銘されていた。

置鮎琢磨氏は無形文化財置鮎与市翁の実子で当年四十四才。博多人形師若手グループで結成している自彫会の会長。戦前は日本ゴム技術研究室に席を置いたが、兄の沖縄での戦死で父の跡を継ぐ決心をし、人形作りに生命をかけられた。若労の連続にもくじけず、昭和二十二年に焼野ケ原となった櫛崎橋近くのほったて小屋で郷土良芸に生きる若者七一八名が相寄り自彫会を結成したのこと。

先般、博多山笠を親子三代で作り、山笠始まって以来のことと新聞などにも紹介されたが、郷土良芸にかける一家の情熱の一端である。今年は師でもある与市翁の古稀祝の年。日頃崇敬する大社に奉納でき念願がかないましたとのこと。因に喜美江夫人は宗像郡地ノ島出身である。

（写真は奉納の三女神像と置鮎琢磨氏御夫妻―奉納当日撮影―）

坂東三津五郎奉納舞踊

◆曲目は長唄、七福神で◆

去る七月二十三日、真夏の暑い日一廻って神宝を拝観されたが、古代の出土品にも造詣が深く、説明の職員も舌を巻くほどであった。

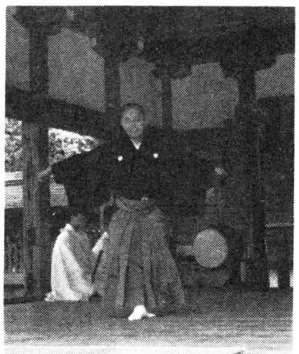
宝物館の阿弥陀経石の前では、平の重盛の金渡説話が歌舞伎にも取り入れられていることから、三津五郎丈は職員に替って夫人に説明する等和やかな一時を過された。

勅使館では、舞踊の源流が神事芸能にあることを強調され、その源の心を知ることが必要であることを説かれた。

神を拝む心を基にした"振り"はその心を離れると始めと違った型になってしまう。全て心が大切ですと示唆に富む芸談があった。

三津五郎丈は、日本舞踊坂東流八代家元でもあり、忙しい歌舞伎公演の合間を縫って、九州住住坂東流師匠連の稽古に来福され、第一日目に参拝されたものである。

写真軽妙に踊る坂東三津五郎丈



〝神湊に山笠復活〟

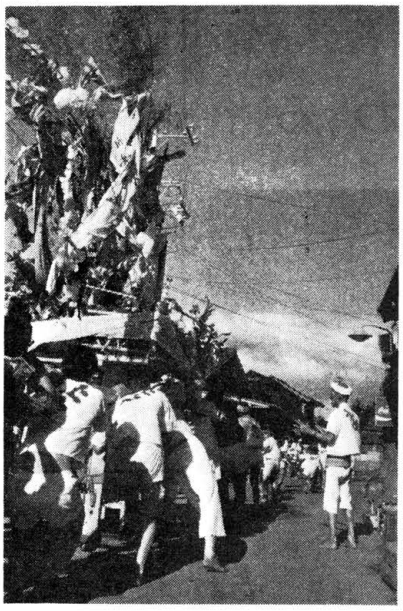
暑さをふっとばす意気のよさ

ソーレ・ワッショイワッショイ!!と意気のいいかけ声が暑さをふっとばす。神湊に十七年振りに復活した山笠、夏のまつりのかけ声である。

去る七月二十日から二十五日までの神湊は、この祭気分で満ち満ち老いも若きも子供も揃いのハッピ姿で山笠を押したり引いたり、ここには断絶などありはしない。実に美しい光景であった。

山笠は神湊町の上中町青少年育成会が子供等の為に復活させたもの。素朴な中にりっぱに祭りの精神を甦らせていた。

来年は「追山」になるとのこと。今から楽しみである。



「歩け〜」運動の主旨で

高砂会月次祭に参列

七月十五日、田島地区高砂会の会員八十名が当社高宮の月次祭に参加した。これは高砂会員の足の力をためすため「あるけ」「あるけ」運動の主旨に基き参拝されたのである。

午前十時、月次祭の時刻には会員一同自宅より歩いて集合、そして当社本殿より高宮まで歩き、途中数十段の石段をのぼり足を試した。

七十歳を過ぎた老人だけに大丈夫かなと不安であったが、会員みんな丈夫で一気に階段を駆け上る人もいた程であった。

高宮祭典が終了すると本殿に於て安全祈願祭、更には摂末社を職員と共に巡拝した。

久方振りの晴天と、月次祭に参加されたためか、すがすがしい感じが見受けられ、足の運動も充分出来たとみんな大喜であった。

巡拝の後、斎館で茶話会を催し足を休ませた。

往復五キロも歩く人があったがまだまだ足は使えると元気に語りまた参拝日を楽しみに正午過ぎ解散した。

〝日本建築学会賞〟受賞さる

―復興建造物設計の伊藤氏―

当大社の御造営事業新築建造物祈願殿、勅使館、斎館、被舎、手水舎其の他の設計を担当された伊藤要太郎先生が本年「日本建築学会賞」を受賞され、工学博士になられた。

博士論文は「匠明」と題するもので、これは桃山時代の建築の〝木割書〟である。

〝木割〟とは、建築物の各部の比例をいう。

建築は、各時代のそれぞれの特色を持っており、それらの時代特色を解明したものが本書であって歴史的な建造物を研究する上には必読の書といえよう。

去る六月十一日、同賞受賞御礼報告のため、御夫妻で当社に御参拝になり、同氏著『匠明』も寄贈された。

氏の今後一層な御発展と御健勝をお祈りする。

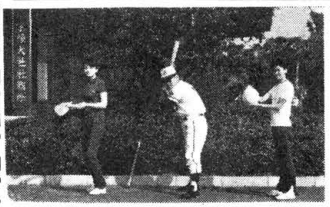
（紹介）

神社に各運動部出来る

大復興事業も終了目前にした当社に、若手職員を中心とたスポーツクラブが発足した。

一昨年来、職務にスポーツにと瑰能な新人の入社で、少々遅しスタートではある。クラブは野球、卓球、バレーで、それぞれ真新しいユニホームも揃い炎天下の境内で練習に余念がない。

尚各チームの戦歴はまだ無いが、野球チームのみ宗像町西二連盟チームとの試合決定があるが、商工チームが恐れをなしてから今だ実戦に及んでいない。今後これ等のチームの活躍が大いに期待される。



郷土懐古　宗像の農耕儀礼（六）

―宮座―　その五

須恵

旧九月八日が宮座だった。六日に縄なうて暮に司掌が〆おろしに来てお宮にあげる。新穀の藁でなくてはいけない。できない年には他部落で詮議したまえ。五六わいっていた。血の出ることはしない。鶏でも殺せぬ（土六では殺していた）六日から八日の昼までは〈ちゃぶい〉で、まり肥え大小便はもちろん不潔なことはしない旧舎を普請のためとこともやめていた。汚いことは全やることは出来ぬようになっていた。御供えが宮にあがればよろしい。ちんざいをやめて十四五年になる。

宮座は以前はお宮でやっていた元も三十戸位あったがその中で二十四五軒しかなかった。座が非常に御馳走で金がいるので、かた切きらぬのが四五軒あった。

七日はお宮に司掌がお供えをあげる。八日は御こがあがるときウルシ（粳）を三宝一つに盛り切りこれがこの日に下り軒別に廻ってきた。またお舌餅や丸のお鏡もあがっていた（お舌餅は女の祝日にこれをいたいておくと軽いといっていた）須恵の福宮は田蔓様（宗像神社）に似ているように思う。旧十二月十五日のお宮座に数回氏子として行ってみた。

宮座の者は八日の晩に〈当番講〉〈宮座が生后すめばおこわを廻して、それから受け取りはその年一ケ年不浄があればその次に送る。また受取ってもその後に不幸あれば次の二送る。吸物に酒肴で渡す。受取人（二軒当番）で来はえ酒二膳とかわらい四つ。これらを一緒にきって床の間にかけて他に帳簿を膳につけて受取る。

帳簿は古かったが上手に書いてあった。それには二十何人の連名が書いてあった。

坐るときの順番はきまっていない。年寄りまたは資格のある人が上座。それから来た人で加わった人。これを名子といっていた。当番渡しの時は酒も飲んでいた。わたしが宮座を受取ってきたとき床の間に掛けていた土器が二つ落ちてこわれた。その年に母を失い翌年に廻した。その翌年にやった。

座の組方が仲々むつかしい。餅の座と本座との組合い。本座の座をやるために盛換えもした。餅の座は〆をなうた竹餅をついたり した。その後は区割でやった。切餅は米一升を切っただけ。御馳走がきまり川魚の味噌づけ焼は是非つけた。〈大平〉には目下六寸の鯛をつけねばならなかった。川魚取りは仲々の心配。どこの川で取ってもよかった。目の下五六寸はお椀で飲み限り。度以外の人にも飲ませていないわけではなかった。神主は三日間は勧めていた。

神田、以前は宮座の当番が作っていたらしいが今は小作。人雇使わないわけではない。（昭和十二年六月古野万太郎七十二才談）

稲元

宮座、くんち。九月十二日現在は十月十七日。上と下とに分れて三軒座。新穀を神にあげる。この座は今でもやっている。神田は二反余りあるが、区で流用している

（滝口惠吉氏談）

池浦

宮座、元は九月八日にやった。〈おくんち〉というた。部落全体で金一円持寄りでやる。御供米は二升切りよった。座の順序は司掌が揮んでから年寄りから上座に座った。

甘酒はたいてい新米（但し潮になる前年などにはこの頃米が取れないことがある）で作る。宮座ではお椀で飲み限り。度以外の人にも飲ませていないわけではなかった。神主は三日間は勧めていた。

神田、以前は宮座の当番が作っていたらしいが今は小作。人雇使わないわけではない。（昭和十二年六月古野万太郎七十二才談）

（つづく）

第三回　宗像大社歌会詠草

毎月十五日〆切　詠草到着順

久留米　篠田太郎坊

雨傘の冷えをスポンに覚えつつ満員列車に立ちて耐えゐる

香　椎　桜井　ツ子

笹の葉の青き蛍籠に覆ふて自守れり息つく虫がにほふ

大　井　吉田ますみ

夫と吾の励ひびし朝夕に子等帰り来て今宵賑はふ

深　田　中野　節子

間伐に夫が通ひし松は難木あらはに春の日のさす

田　島　吉武　武雄

酒気おびて眼の玉すえし因念ここぶし握れ吾は去り行く

徳　重　石松やす子

機械もて植えし早苗の健やかに育てと祈る朝の社頭に

田　熊　鷲津かつ代

まどかなる花を重けに支へつつあちさゐはやし地（つち）に傾く

吉　武　早川　須磨

梅雨の空ひと旦曇りし畑見ゆる赤き没り日の城山を染む

光　岡　河村　久光

庭に咲くこの紫陽花の珍らしく貴い来たりぬこの里の人

武　丸　原田　リノ

鎖をたどり下れば奥処のみ灯に不動尊立ちまし誰か額つく

宮　田　片山　一

柿の若葉の秀を離れ立す十五夜の光背にして玄関に入る

赤　間　白木うめの

記憶力うすら疲れやすき吾をやさしくなりしと吾娘の云ひたり

二　戸　畑　藤井　孝子

陸橋を集団で渡る学童の黄色い帽子一際目立ちて

勝　浦　永島　文子

公害の及ばぬ里に早苗とり蛙の騒音耳の辺にきく

東　郷　藤崎　辰子

罪のごとゆる黒忠見てをりぬ機械が植ゆる若き早苗を

名　残　竹原　圓

二人住む昔の家の厨なる老いたる妻のために縞ろ

曲　天野トモヱ

二薬よりすくす宵ひまわりは大きい顔して今朝開きたり

田　久　小方　実

二十六年支えられ旨ひし妻が煩わし時は吾に愚痴云ふ

田　久　立花　勇雄

酒断ちて病いやさむ今日よりは意志強くあれ長寿希はば

田　熊　小野かをる

初に見る枝垂桜の真盛りに今来たりぬ平安の宮

戸　畑　田中　桂一

大学を出ない事を誇とす庶民幸相豪荘に住む

戸　畑　田中ハツセ

さしのべて弧を画ず腕型をなさず鏡の中にくりかへし踊る

福　岡　麻生　初栄

トンネルに這入たるときまじまじと向い座の親重窓に見たり

宮　田　北原　君子

鯉幟風をはらみてひかへり時折地上に太き影さす

津屋崎　麦野　時雄

今日もまた空に焼つく日の光海に群がる水着の大祭

原　町　八波　五月

産声高く男児生みたり吾娘は今母の祈りに報ゆる如く

田　島　伊藤　京子

見事なる丹精こめし手作りの献上の座布団おし頂きぬ

武　丸　立石ろせ乃

早朝に出て行く夫を見送りて片付かぬ厨に独り茶をのむ

宗　像　中村　幸

落ちかかる夕陽のなかにひたに取る苗彩りて露のほろなり

大　島　越智　治子

何故かむなしさせまりほろほろと涙ぐみつつ海原眺む

大　井　木原　房子

梅雨はげし下校せぬ子に落ち着かず幾度も立ち表眺むる

津屋崎　菱　花　女

吾が植えし西瓜日々に大行く露踏みわけて見るが楽しき

津屋崎　古部　由久

俳画をは習へと老ひての稽古なれば上達おぼつかしさかな

―宗像大社菊花会理事会―
今秋の菊花展大規模に

梅雨あけの去る七月十六日、午前十一時より本年度第二回目の宗像大社菊花会理事会が開催され、この秋に行う菊花展の規模、金容といったものがはゞ明らかになった。

これによると出品鉢数が昨年より約三～四割増加する見透しで、その数約一、四〇〇～一、五〇〇鉢という名実ともに西日本最大の菊花展が開催されるとのことである。

この数量は各地区運営事より提出された予定数に依るものであるが昨年はこの予定数を上廻る出品であった事から各地区とも堅い見積数で予定をたてており、増加鉢数はほゞ確実とみられている。

その為、当日は主に受入態勢の強化、陳列ハウスの増設、陳列の諸問題点、陳列場所の選定が審議検討された。受入態勢強化面に関しては諸役分担し、スムーズに事を運ぶこととなり、九月会議で諸役の最終決定を行う事に決定。

陳列に関する諸議題は一番重要なことである為、白熱した意見が交わされ、結局、昨年より整備された陳列にすべく早急に再考する事、陳列ハウスの増設を急ぐ事、出品花の質向上を期すること等が申し合わされた。

陳列場所については実際に大社の境内を見て廻り、現場で検討され、心字池から神門までの間で主に勅使館前から神門間サイド部分と斎館前に至る境内の広いスペースで余裕をもった陳列がなされることとなり、使用する陳列ハウスは延べ百間以上となる予定である。

この外に賞に関する件や搬入搬出に関する件、審査に関する件など初々審議されたが結論は出さず次回会議までに各員再検討しておき最終決定することになった。

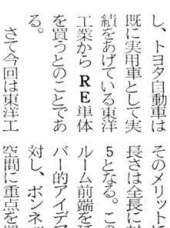
また、議事外として榊本理事より今秋の当菊花展模様はNHKテレビ放送の天気予報バックスクリーンに使用され、十一月一日から同月末日まで放送される予定であるとの朗報がもたらされ、一同を喜ばせた。

話題の新車をみる (六四)
シャンテの巻

光化学スモッグによる被害が多発している今日、政府は環境庁、運輸省、警察庁、通産省等を含む十省庁の局長クラスにて構成する光化学スモッグ対策推進会議を発足させた。この七月十五日、第二回目の会議を開き、最も健康被害の多発している東京都内の一地区をモデルケースとして、自動車乗入れの大幅な制限を行い、効果があると所定する結果が出たならば、他の地区迄の制限を拡大して行く、との方針を決定し、地区の選定に乗りだすこととなった。この決定はもとをたゞす光化学スモッグの元凶は自動車の出す排気ガスにより、ガソリンにて充分走行可能なる車が、たとえば黒気の様に、まったくガソリンを使用しない車の開発が急務とされることになるであろう。

この対策として、レシプロエンジンに完全に鉛を消化させる装置をつけるバッテリーカースはガスタービンエンジンの開発等があげられるが、既存のエンジンに附属してつける装置の方式を除いては、大型に向かない等の難点がある。そこで各社は既に実用化されているREエンジンを選ぶことになる。日産自動車は二十億円もの大金を投じてRE工場を建設し、トヨタ自動車は既に実用車として実績をあげている東洋工業からRE単体を買うとのことである。

さて今回は東洋工業のシャンテについて説明しよう。シャンテは「REエンジンを積んで売り出されるであろう」との大方の予想であった。だが今回登場したのは水冷2気筒、ロータリー、デイスク、バルブ付と云うレシプロ車である。この装置は切り欠きつきの円板をインテークマニホールドに回転させ、2サイクル、エンジンの吸入、予圧行程にケシメイシング設定と、吸気抵抗の低さを計ろうとするものである。この車の最大の特徴は2200㎤からなるロングホイールベースとそのメリットにある。そしてその長さは長に対する比率0、745となる。この車の初期の構想はルーム前端を延長したキャブオーバー的アイデアにあり、ルームに対し、ボンネットが短かく、居住空間に重点を置いている。全長2995、全幅1295、総排気量359cc水冷直列2気筒縦置FR方式、圧縮比10、0最高出力35Ps／6500rpm（GL＝仕様）最小回転半径4、0mである。



〝豆剣士〟の闘志燃ゆ
玄海―池野少年剣道部戦

去る七月十五日、玄海町第一回少年剣道大会が玄海小学校体育館に於いて玄海町主催のもとで宗像大社並びに玄海町農協の後援をえて盛大におこなわれた。

玄海町には現在、玄海少年剣道部（八十名）と池野少年剣道部（三十名）があり、玄海少年剣道部は宗像大社神職の指導により、定期的な練習を積み重ね精神面、技術面においてもめきめき上達している。一方池野少年剣道部は昨年度誕生し、安部、森岡氏のもとで基本的な練習から身につけ、連日の練習に励み、心身の練磨をはかり休力作りに邁進している現状である。

両部とも健全なる青少年を育成すべく発足し、着実にその実を上げている。

―上位登老人クラブ参拝―
復興後の境域に感慨深く

日増し団体参拝が増加している当社に去る七月九日、小雨降りしきり足の悪い中を田川市猪位金校区上位登老人クラブ、代表自石幾治氏外四十三名が参拝された。

宗像、田川間は車で約一時間の近距離の為か大半の人は過去に一二度参拝されたとの御話しであったが新装なった境内に足を踏み入れたことは今回が始めてのことであった。

祈願殿、勅使館、斎館と順をおって見学、特に勅使館の厳粛なたたずまいには一同深い感銘を覚えたようである。

【玄海町役場、村田記】

成績次の通り

個人の部（学年別）

三年生優勝　永野修治（池野）
四年生優勝　養父信夫（玄海）
五年生優勝　中村真治（玄海）
六年生優勝　永野義隆（池野）

海岸道路一部開通
―津屋崎・福間町間―

都市計画街路の福間海岸道路が完成し、七月三日、午前十時、厚生年金スポーツセンター前で竣工式が行われ開通の運びとなった。

福間海岸道路は、津屋崎の境から福間浜の西郷川までの延長約千三百米、幅十六米の県道。

都市計画街路として、四十二年から着工され、十五戸の用地買収と移転を含む総工費二億円の大がかりな工事。

此の道路は、ゆるやかに湾曲した美しい海岸線に沿って設けられたので、この道路新設にあたり地元福間町漁業協同組合の荷揚場も造られ便利となった。

此の道路完成によって玄海町、津屋崎町、福間町の三町が直結し国道三号線とも結ばれたのでドライバーにとってはこの上もなく快適となり、新しい観光ルートへ発展しそう。

なお、福岡県宗像土木事務所の話によると、この海岸道路は古賀町まで延長される計画がすでに決まっているとの事。

◇宗像の海辺◇
海水浴客は年々増加

「真っ赤に燃えた太陽、青々とした海原、こげるように熱くなった砂浜」。日本列島に大きな被害をもたらした集中豪雨が去り、今は文字通りの真夏だ。

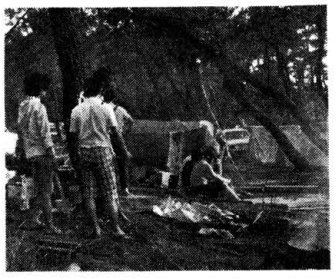
玄海灘に面した七浦の海岸にはマイカー族、家族連れ、団体、サークル等の人波が押し寄せ、沿道も車の波。中でも津屋崎の海岸は例年にも増して多勢の海水浴客が訪れ、警官も交通整理に汗々の大奮闘、さぞかし隣りの氷屋がうらめしいことであろう。

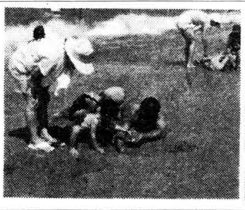
砂浜に穴を作って遊ぶ親子連れ親しくボール投げに興ずる若い男女、海辺で相撲大会？に力を出す団体客、ボートから糸を垂れる太公望、泳げない？のでもっぱら甲ら干ししゃれる娘さん、愛のムチとばかりに子供を海中に投げ込む若い父親等種々な海辺の模様。

今年の水着は、個々人の個性を表現したものが目を引き、特に三角ブラ、とか、セミビキニが多く今までの三冠王（ビキニ、セパレーツ、ワンピース）の影が薄れた、とは売店主人の話。

灼熱の太陽と青い海、白い砂浜松林と夏を満喫させてくれるが、規則を守り、お互いが譲り合って無謀な行動を慎み、いつまでもこの自然の恩恵が受けられる様望んでやまない。

（写真は海水浴のスナップ）





写真説明

最近とみに多くなった神湊松林でのキャンプ集団。海は透明、松は緑。公害は勿論関係なし。（写真上）

神湊は活魚料理の名所魚料理を賞味する家族向けレジャーにはうってつけ。（写真左）

津屋崎海岸は遠浅で交通の便に恵まれているためか、海水浴ラッシュは都市の近郊海岸並み。（写真右）

語源教室

障子

障子紙を使用したという記録がある。しかし、障子も唐紙も板戸から変化したもので、杉戸のことを平安朝時代は杉障子といっていたようである。

我国で、障子の使用が発達したのは、木造建築様式の進歩によるもので、強くかたい和紙が光の透過率が大きく、通気性もあるため障子は奈良朝初期頃にはすでに用いられていたようである。

その起源は奈良時代、播磨（はりま）産の障子紙（はりま）が唐紙（からみ）障子といったのがいつのまにか唐紙に変ったと思われる。関西地方にいくとこの唐紙を〝ふすま障紙〟とも呼んでいる。

文化の開けた今は、個人の建物においても、〝サッシ〟や〝ガラス窓〟が多く使用され、障子はかげがうすくなってきたが、やはり障子に思い出が深い者には何んとなくそはないものを感ずるのである。

田舎の方では、お盆が近づくと障子の張り変えが一斉に行われる風習がある。

お盆が近づくにつれて子供の頃を思い出すが近代化された今日の建物では余り見られない。

我国独自の障子が、いつ頃から使われる様になったか調べて見ると、障子は奈良朝初期頃にはすでに用いられていたようである。

その起源は奈良時代、播磨（はりま）産の障子紙（はりま）が唐紙（からみ）障子といったのがいつのまにか唐紙に変ったと思われる。関西地方にいくとこの唐紙を〝ふすま障紙〟とも呼んでいる。

文化の開けた今は、個人の建物においても、〝サッシ〟や〝ガラス窓〟が多く使用され、障子はかげがうすくなってきたが、やはり障子に思い出が深い者には何んとなくそはないものを感ずるのである。

暑中御見舞申し上げます

新出光石油株式会社
福岡市博多区上呉服町1番10号
取締役会長　出光弘
代表取締役専務　田尻輝範
代表締役専務　若杉健太郎

日立製作所
九州営業所
福岡市中央区天神二丁目12－1　TEL 092(74)5831(大代表)

宗像大社歌会

俳句作品集（二五）

田島　有吉　唐水

宝くじ外れていたり梅の空

土穴　八尋　恒夫

梅雨晴れて朝顔棚の花が咲き

田熊　安部　ゆき

日曝日のんびり朝寝クリヤ咲く

福岡　入江　柳江

五時半に旭昇るや夏木立

宮田　来島　艸雨

菖蒲湯に孫の行末祈念せり

武丸　野中　和子

私学紛争議さる議会の梅雨の窓

東京　小浦　濠介

鳩眠るとき菩提樹の花ほれ

東京　小浦　太平

沢沿ひに鑾鸞御堂額の花

津屋崎　菱花　女

艶やかな柘榴の花や煉瓦塀

久留米　篠田太郎坊

つゆさめや客なきネオン早や灯る

大井　吉田ますみ

額咲くや事多き日のつぎつぎ

福岡　麻生　初栄

野も山もかき消す如く俄雨

大井　木原ふさ子

錦鯉緋色沈めて梅雨ふかし

宗像神社沖津宮祭祀遺跡

昭和四十四年度調査報告

（今号より第Ⅱ巻を掲載します）

Ⅰ沖ノ島祭祀遺跡とその調査

沖の島は玄海灘に浮かぶ絶海の孤島で、東西約一㎞、南北約〇、五㎞、周囲約四㎞で、その中央の一の岳は海抜二四三・一mとはかる。晴天の日には西方には対馬、壱岐東南には大島や、宗像本土を望むことができる。明治三十八年五月二十七日に、この島の沖で日本海々戦があり、その名も有名である。

宗像大社は辺津宮、中津宮、沖津宮よりなる。沖ノ島はいま宗像大社の御神域で、その西南中腹の原始林の中に、沖津宮があり、その祭敬は悠久の古より現在につづいている。

この沖津宮附近に、古代の祭祀遺跡があることは江戸時代に貝原益軒が記し、青柳種信らは実際にこの島にわたって踏査し、明治・大正時代に江藤正澄・柴田常恵氏らが調査したところであった。戦前には田中幸夫・鬼元国氏らの調査があり、この島の重要性が認識されていた。

昭和二十九年、宗像大社復興期成会の一事業として、社史の編纂が行われている際、沖ノ島の現地調査が企画され、この年の五月と一〇月に小島鉦作氏が団長、鏡山猛氏が現地主任として調査の任にあたり、昭和三〇年六月、一〇月と続行、この時成果が昭和三十三年三月『沖ノ島』として刊行された。

昭和三十二年八月および翌三十三年八月には、第二次調査が行なわれ、多量の鏡・石製品を出す巨岩上の遺跡が調査され、これらの成果は『続沖ノ島』として昭和三十六年刊行された。

宗像大社および宗像大社復興期成会は、御社殿の修復・御神域の拡充整備計画と併行して再びこの周辺をとりあげ、文化庁、福岡県教育委員会の他関係各界の御了承を得て、調査の実施をすすめることになった。ここで宗像大社、九州大学文学部考古学研究室、鹿島建設、出光美術館、その他関係者で相寄り、宗像大社祭祀遺跡調査隊が結成され、隊長として岡崎敬、副隊長として小田富士雄、松見守道、内務の主任として井上頴平があたることになった。

第一次、第二次の調査では、遺跡そのものの性質もはじめてであり、宿営も困難をきわめたが、これを完遂された先輩各位にはこの機会に感謝の意を表したい。

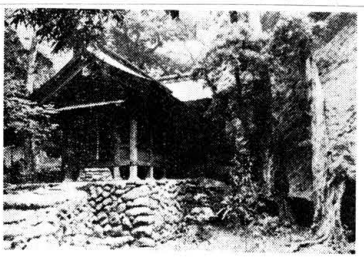
沖ノ島の祭祀遺物は宗像市田島にある宗像大社辺津宮にうつされ国宝として二指定を受け、現在辺津宮内の宝物殿に収蔵展示されている。

第一次、第二次調査以降、十数年余の歳月が流れ、時折、沖ノ島出土と称する鏡や石製品が福岡市内にあらわれることがあり、われわれの心を痛ましめた。宗像本土も急速に開発の手が進められ遺跡のあらわれることが少なくなかった。神楽、奴山、狐ヶ口など宮地嶽に至る前方円墳群は、宗像の古代豪族、宗像君の城郭考えられるもので、この学術調査も開発に先立つて是非実施されねばならないものである。こうした状況の中で、沖ノ島の学術調査が新たな方面より要望されるところとなった。

第三次の調査は第二回予備調査（昭和四十四年四月二日～七日）第三回予備調査（昭和四十四年五月八日～二十八日）にひきつづき本格的に第三次第一回の学術調査（昭和四十四年九月二十八日～一〇月二十日）が行なわれた。この六号遺跡を中心として調査が行なわれた。五号遺跡は第一回予備調査の際、金銅製龍頭が発見されて注目をひいたところである。ここから唐三彩片が出土し、六号遺跡では祭壇状遺構が発見された。また社務所南方の正三位社前遺跡で土師器とともに完全な鉄鋌が発見された。

この際、三笠宮崇仁殿下は、したしく沖ノ島においでになり、御視察の上、御激励の言葉をあたえられたことは光栄であった。この間、鹿島建設を中心とする測量班によって沖津宮、社務所全地域の測量も行なわれ、今後の調査および遺跡保存にそなえたのである。

この第三次第一回予備および第二回予備調査および第三次第一回調査については『沖ノ島Ⅰ』（宗像大社沖津宮昭和四十四年度調査概報）として昭和四十五年八月刊行されたので、詳細はそれによられたい。



Ⅱ調査生活の記録

一、第三次第二回の調査（昭和四十五年五月五日～五月二十五日）

昭和四十五年春の学術調査は、昨年の経験者を中心として調査隊を編成し、五月六日より現地作業を開始することにした。

復興期成会々長代理、出光泰亮以下十五名の先発隊員は、端午の節句の佳日、午後三時辺津宮に集合して、本殿前で祈願祭をとりおこない、調査の無事を祈ったあと、準備作業にとりかかる。空は時に小雨をまじえ、あやしい雲行きであったが、準備作業を終え、一同五月宴に宿泊した。

翌五月六日、雨まずますますはげしく出発延期。五月七日、雨後の晴天をついて午後二時沖ノ島に到着した。荷揚、設営をおえ、夜は明日からの作業の段取りうちあわせを行い、疲れた体を久しぶりの宿舎によこたえた時は、午後十一時をすぎていた。

二宮佐天孟主人

四島一二三伝

―原田種男著―

第二章　善導寺高等小学校のころ

善導寺は、金島からいえば筑後川をへだてて南の方角に当る。善導寺という地名は、この地に浄土宗鎮西本山善導寺があるからそういったのであろう。名刹善導寺は七百七十余年前、大紹正宗国師の開基にかかり、はじめ井上光明院といい、後、終南山善導寺という大紹正宗国師は聖光上人といって筑前香月の生まれて、国守香月弾正左衛門ノ尉則茂の子である。七才の折に出家仏門に入り、天台宗の奥義に達し、のち宋の国に赴き法然上人の浄土の法門に入って修行を重ね、浄土宗の第二の祖と仰がれるほどの名僧となった。

土人が三十一才のころ、筑後地方で道を説いたころは、この地方は満目蕭条の荒野で道ゆく人も稀であった。そのころ、強盗がこの辺りに集って旅人を殺しては屍を古井戸に投げこんでいた。土人はこれを悲しみ、強盗を説いて仏門に帰依せず、古井戸の上に庵を結び朝夕念仏を唱えて死人の霊を弔った。いま尚、仏殿の床下を少し掘ると昔の名残りを残しているという。後、十三年をへて土人はいよいよここに留り、もっぱら力を鎮西仏教の事につくした。したがって、善導寺を浄土宗鎮西本山といい、土人を鎮西土人というのである。土人は、建暦二年三月（一二一二年）宋の国から善導大師の霊像を迎えてここに安置された。

はじめ土人がこの地に招いてこの精舎を経営されると当って、草野水平は大へん喜び境内十二町歩を寄進した。善導寺は、三十の支院を建て水田七十五町歩を寄進した。後、朝廷の尊信も篤く、勅願、紫衣聴許、勅願所の誉もそいている。三祖堂内の善導大師、大紹正宗国師の二坐像、紺紙金泥観普賢経は重要文化財に指定され、その他の宝物は枚挙にいとまがなく、境内の大樟も天然記念物だ。

当時の境内は、東の飯田馬場道から西与田村に至る凡そ八町、南北面山麓から北は筑後川に至る凡そ二十三町に寺域を展げ、又、永経の料として水田七十五町歩があった。寺域には各地の僧が集まって参詣人も多くたんだんと門前町を形成し、開山上人に随行し移住した香月の庄の人々が住んで賑やかになった。三百年前、久留米藩となり、門前の寺有地を屋敷割付によって門前百姓町として軒並をそろえ、次第に門前町として発達して今日に及んだ。二十四軒の寺侍、寺庄屋があって後に代官をおいて関所札を出した。しかし時代によって盛衰があり、安永年間に大火があって上町だけ残り、その後復興したが、藩籍奉還によって境内地ことごとく上地を命ぜられ門前町は衰微した。しかし筑後一円の交通の要路であり、鎮西大本山をひかえた歴史的由緒ある地だ。土地は三井郡の東南部、東は草野町、西は久留米市山川町に接し南は水縄山を眺め北は筑後川の境流に沿って北野町と境を接する。土古は筑後川の沿線に年々土砂を堆積したいわゆるデルタ地帯をつくり、今日の筑後平野を形成したのである。善導寺というのは、さっとこんな歴史をもっている。

さて、市次少年は、この町の善導寺高等小学校に通うことになった。当時は、尋常小学校が四年、高等小学校が四年という制度であった。当時、高等小学校は、郡に一校しかなかったので農村では、尋常小学校四年を修了して学校をやめる人が多く、高等小学校にいく人は、十人に一人くらいのものだった。つまり、小学校を修了した生徒の殆どは、上級の高等小学校にいかなかった。金島から善導寺の高等小学校まで約四粁あって歩くと五十分ほどかかるのである。そこで、金島から善導寺の学校にゆく生徒は、四島家の裏の方の筑後川べりの船端から渡し船に乗って善導寺の赤岩というところで船から下りて学校に通ったのであった。渡し船にはたいてい十二三人の生徒が乗り、これを蔓兵衛爺さんが棹さして漕いでいった。船賃は一回が一銭であったが、盆の南に東学党の一揆が起ったためでは、立ってはいなかったという。オランダ人であれば、掛鼎が出来ないような馬糞でも、数名の女中を使っていた。オランダ人が机について漫画をどうなりこうなり読んでいると、女中が膝行してコーヒーを運び、その前に跪きまして、膝行でうしろにさがり、飲んでしまうまで合掌して待っていたそうだ。権力あるネシア人に対しても膝行していたものだ。たとえばオランダ人が人心掌握のため上手に残しておいた、ソロの王様は日本の城主と同じように多くの家来を擁し非常な権力とそれから金を持っていた。この王様やその一統の前では、ネシア人は膝行しなければならなかったのである。今日でもおそらくそうだろうと思う。大分昔の話であるが、徳川義親氏の著につぎのように書いてあった。

「ソロ王宮の白い大理石を敷きつめた五十畳以上もある広い部屋に案内された。暫くすると広い部屋の音が、やや離れた所から流れてくる。すると向うの入口から老女が一人膝行して入って来た。四人の嬶娟とした舞姫が静かな足どりでこれに続く。能の足どりと全く同じである。スリンピと公子はいわれていた。舞姫達の冠には紅と白の香りの高い花を飾り袱の上半身に乳の上まで美しい絹をたく巻き更紗の裳裾を長く曳き腰の左右には美しい綾羅を垂れ、楚々とした姿姿でどれも裸足である。これにまた何人かの老女が膝行するが、これは後見の役目をするのである。中央の柱の真中には華奢なテーブルがあって、その上の切子の小さい瓶には真紅の液体が盛られ、それと同じグラスが四つ置いてある。舞姫はこの中央の間に入ると四隅に分れ、床上に坐してしばし合掌してから舞い始めた。玉楼の内、常夏の国の夜は我国の玲瓏とした秋に似て冷やかに、闇燈の光に輝し、あるいは離れ、あるいは寄りそい、花に戯る胡蝶とはかりに舞う。やがて二人の舞となり、一人が舞いつつ静かにグラスを振り上げ、他はこれに紅の液を注ぐ。そのグラスを捧げてしばらく舞いそして舞いつつそれを干して了う。

（つづく）

═宗像藪庵先生百話═

膝行　南方華かなりし頃

宗像太郎坊

昭和十七年三月下旬、メタンを占領して間もない頃、部隊の嘱託医になってもらうために、ネシア人としては優れた歯科医スナリオの家を訪れた時のことである。大きな水槽に熱帯魚が泳いでいる待合室に、長靴のまま膝掛け待っていると、二人の男の子があらわれ、両膝でこそこそ絨毯の上を這い、私の前へ来て、「立派ですね」といいたげに、長靴を撫でまわしわたしを見上げる。おかしなことをするものだと思っていたが、後で在留邦人に聞くと戦前は、偉い人の前、ことにオランダ人の前では、立ってはいなかったそうだ。オランダ人であれば、掛鼎が出来ないような馬糞でも、数名の女中を使っていた。オランダ人が机について漫画をどうなりこうなり読んでいると、女中が膝行してコーヒーを運び、その前に跪きまして、膝行でうしろにさがり、飲んでしまうまで合掌して待っていたそうだ。権力あるネシア人に対しても膝行していたものだ。たとえばオランダ人が人心掌握のため上手に残しておいた、ソロの王様は日本の城主と同じように多くの家来を擁し非常な権力とそれから金を持っていた。この王様やその一統の前では、ネシア人は膝行しなければならなかったのである。今日でもおそらくそうだろうと思う。大分昔の話であるが、徳川義親氏の著につぎのように書いてあった。

「ソロ王宮の白い大理石を敷きつめた五十畳以上もある広い部屋に案内された。暫くすると広い部屋の音が、やや離れた所から流れてくる。すると向うの入口から老女が一人膝行して入って来た。四人の嬶娟とした舞姫が静かな足どりでこれに続く。能の足どりと全

市次少年が在学中に日清戦争が起った。明治二十七年五月、朝鮮の南に東学党の一揆が起ったためである。

市次少年が在学中に日清戦争が起った。明治二十七年五月、朝鮮の南に東学党の一揆が起ったので船賃は一回が一銭であったが、盆の海戦に大捷、十一月には、昔の軍歌にへ支那は眠れる獅なれや起きれば油断がならず……と唱われた清国も弱ってしまい、二十八年の一月三十一日には清国の講和使として張蔭桓、副使として邵友濂が広島へ来たので、金権大使の伊藤博文が会って、金権としてのかれらの資格が不備で和談を拒絶した。二十八年二月、威海衛の港を占領し、清艦を分捕り、各艦に旭日の軍艦旗をかかげた。清国全権弁理大臣の李鴻章が講和談判に下関に来たのは二十八年三月十九日である。ここで下関条約が成ったのは四月十七日であった。

（つづく）

それを口実に清国は六月に百力部隊を京城の南八十粁の牙山に上陸させた。帝国は、自衛のため仁川に兵を揚げ京城、竜山のわが居留民を護ったが、七月二十五日、わが艦隊は、豊島沖で清国艦隊からの挑戦に応戦して撃破し、陸軍は七月二十九日、成歓（牙山の東二十粁）で清国陸軍と衝突して敗走させた。こうして宣戦の大詔が八月一日に降下した。九月一日に平壌陥落、九月十七日に黄海

暑中御見舞申し上げます

西日本相互銀行
福間支店
福間支店長　明石　浩
電話　福間②1231　1233番

福岡相互銀行
古賀支店
古賀支店長　加茂川仁己
電話　古賀②3636～38番

福岡銀行
宗像支店
宗像支店長　高原和美
電話　宗像②2017．2214．2721番